

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | :「ふれ愛・寄り添い・共に生きる」を理念としふれ愛コーナーに掲げ常に管理者および職員一同心に刻み入居者様の安心、安全を念頭に常に寄り添い心の通う関係の構築に努めています。 | 管理者は創業者である。同敷地内に先に運営する小規模多機能型居宅介護「ケアサポート虹」と共に、現在の理念を職員間で話し合い掲げたものである。地域密着型サービスとして何が大切か、目指すサービスのあり方を理念を通し、具体的なケアに結びつけ、統一が図れるよう努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | :地域の老人クラブや婦人会などの依頼を受け出前教室、健康教室に出向き交流の機会を頂いています。また、地域内にお茶の間「笑い和い」を定期的開催し地域住民と交流しています。 :地域サークルのボランティア、地域行事等 | 地元の自治会に加入し、回覧板等で町内の行事等の情報を把握し、必要に応じて参加している。事業所の立地が町内の民家と離れており、日常的な触れ合いが得られない現状があるが、事業所内の地域交流スペース「ふれ愛コーナー」等でお茶タイム等を通じ、利用者との交流に繋がられるよう努めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | :会合の機会があり認知症の方の支援方法や相談窓口への連携など事業所としての役割に努めています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | :2か月に1回、行政、地域包括、区長、民生委員ご家族、ご利用者本人等の出席を頂き毎回サービスの実践内容及び報告、参加者の意見要望、行政への質問や意見交換を行いサービスの資質向上に活かしています。 | 運営推進会議は大切な会議であることが運営規程で位置づけられ明記されている。隣接の「ケアサポート虹」と一緒に実施されている。事業所からの報告と共に、参加メンバーからの意見、要望、地域の実情等を聴取に努め、双方向的な会議になっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | : 困難事例や問題、相談等、都度細やかに連絡を取り助言を頂いています。 | 市の担当者とは日常的に連絡を取り合うと共に、運営推進会議にも参加してもらい指導、助言を受け、問題解決に向け連携して取り組んでいる姿勢が窺える。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | : 「身体拘束廃止委員会」を設置。今後研修会への参加を通し、報告会を行っていきます。 : 施設マニュアルに沿って適時勉強会を行い身体拘束を行わないケアを実践しています。 | 鍵をかけない暮らしの大切さについて、職員の共有認識が図られており、自然な環境の中で生活が営まれている。日々のミーティングには管理者も参加し、その日のケアを振り返り、利用者への抑圧感を招いていないか点検し、対応の仕方等、具体的な方向付けがなされている。 | |
| 7 | (5-2) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | : 虐待防止マニュアルを通して事業所内で勉強会を開催し虐待防止法について学ぶ機会を設けています。 : 事業所内での虐待を見過ごすことのない様管理者を中心に防止に努めています。 | 事業所内に身体拘束廃止・虐待防止委員会があり、外部研修の報告、内部勉強会等が定期的実施されるよう努めている。管理者は心理的虐待や利用者への言葉かけ等で不適切なケアに繋がらないよう、その都度話し合い自覚を促すようにしている。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | : 管理者をはじめ職員間ではまだ自立支援事業や権利擁護、成年後見制度の概要についてはまだまだ勉強不足が懸念されます。今後学ぶ機会を設け理解を深めたいと思います。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | : 「重要事項説明書及び契約書」に沿って十分な説明と理解を得て締結しています。また不明な点や疑問等についても丁寧な説明と納得を得られるよう努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | :定期的に利用者家族を訪問したり、面会来苑時などに時間を頂き意見や要望を受け可能な限り反映するよう努めています。 | 運営推進会議にメンバーとして参加する利用者、家族からの意見要望の聴取や、月1回の面会時を大切にして家族への声掛け、なかなか連絡の取れない家族には定期的に管理者が訪問する等、利用者、家族との関わりの中で寄り添いながら距離が埋められるよう努めている。関わりの中で出された意見、要望等は職員ミーティング等で話し合いケアに反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | :定期的に職員会議を開催し、意見交換、提案事項の確認など行い反映に努めています。 | 職員会議は年4回実施し、その内1回は「ケアサポート虹」と合同で行っている。職員の気付きやアイデア等が積極的に発言できる環境が構築されている。また、定期的に職員一人ひとりから自己評価を提出してもらい、それに基づき管理者が個別面談を行い、仕事への取り組みや一人ひとりの考え方、本音を聴きだし方向付けに努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | :定期的(就業3か月、6か月、一年)に個人面談を実施、各自のメンタルヘルスに努めています。また年一回職員から自己評価の実施も行っており働きやすい職場環境の整備に生かしています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | :介護主任をはじめ職員の資質の向上を目的に各種研修の機会を設け自主性を持って参加を促し自分磨き、職員同士の切磋琢磨を期待しています。施設内研修では学びたい内容を調査し実施している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | :地域内の同業者間でネットワークを立ち上げ情報交換の機会を設けています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | : 本人との事前面接では今、困っていること、心配な事やこれからどう過ごしたいか、などをじっくり時間を掛け傾聴に心がけています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | : ご家族との事前面接では入所にあたりこれまでの経緯や望む生活など要望を情報収集し今後に生かせる様関係づくりに努めています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | : 初期段階ではすべてを見極めることは困難ですが、事あるごとに相談、検討し十分な支援に繋げ対応していけるよう努めています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | : 理念である「ふれ愛・寄り添い・共に生きる」を全うすべく職員一同関係づくりに努力しています。 | | |
| 19 | (7-2) | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | : 面会時や訪問させて頂いたとき等、家族との関係の構築に努めています。 : 本人と家族の絆は良好な関係を保ち共に支えていける様努めていきます。 | 家族の面会時や個別訪問時に、家族の悩み、苦しみ、喜び等を受けとめるように努めると共に、利用者の日常の様子や、職員の思いをきめ細かく伝えていくことで、本人を共に支えていくための家族との協力関係が築けるよう努めている。また、遠方の家族との絆が途切れないように必要に応じて電話で話し合いサポートしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | : 気軽に訪問していただける施設、場所として共有コーナーを設えており、家族、友人、馴染みの地域の方々も自由に来苑され関係継続の支援に努めています。 | 交流スペース「ふれ愛コーナー」は、玄関を入ってすぐの場所にあり、家族、親戚、知人、友人等が気楽に立ち寄れるようになっており、利用者との交流の場になっている。来訪者が持参したお菓子等を一緒に食べながら昔話をしたりして楽しんでもらっている。入居前から行きつけの美容院、理容院から送迎してもらったり、顔馴染みの食堂、居酒屋等にも希望があれば、家族と相談してアプローチしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | : 9名という限られた人数での生活ですがそれぞれの個性を發揮しお互いを思いやる場面も見られ関係の構築に繋がっていると思います。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | : 本人、家族の希望で他施設への移行や長期入院の場合など都度相談に応じ経過のフォローに努めています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | : 本人主体の暮らし方を優先しなければならないと思うが現状はそれぞれの意向や希望を把握することが困難な場合など家族主体となっているのが現状です。可能な限り本人本位に向け検討努力しています。 | 職員は担当する利用者一人ひとりの思い、希望、意向や体調の変化等について日々の行動や表情から汲み取るように努め、センター方式「私の姿と気持ちシート」にまとめて職員間の共有ツールにしている。 | |
| 24 | (9-2) | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | : ご本人、ご家族からの情報を参考にこれまでの生活環境などを把握しご本人の生活スタイルに反映しながらその人らしい暮らしが継続できるよう支援に努めています。 | 利用者本人の言動が激しく戸惑うケースについては、本人のバックグラウンドに関する情報の大切さを家族と話し合い、共有することで成果を上げた事例がある。看護師の指導の下、根気よいケアの繰り返しを行い、本人独自の今を生きる生活スタイルが一步一步築けるよう努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | :一人ひとりの生活リズムを把握し、出来る事の維持の支援に努めていきます。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | :居担制を取り入れ各自課題などの話し合いや定期的にモニタリングを開催し介護計画に反映し必要時には家族の参加を促し関係性の構築に努めています。 | 管理者、看護師、リーダー、副リーダーの下、居室担当制を取り入れて、利用者との信頼関係、何でも話せる関係を作り、チームで情報共有しながら利用者のより良いケアに努めている。定期的にモニタリングを行い、本人や家族からの新たな要望や状況について把握し、看護師などからの情報により現状に即した計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | :日々の生活を業務日誌に記録し情報の共有に生かしています。また個々の申し送り事項についても専用のノートに記載し気づきやケアの見直しに活かせる様記録し情報共有に努めています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | :急な体調不良や特変など緊急性が生じた場合には柔軟に対応しています。 :指定日時などの書類作成が届き家族の状況を踏まえ代行申請することもあります | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | :地域の季節行事への参加や近隣の公園、スーパーなどへ買い物に出かけています。豊かな暮らしを支えていける様地域資源を把握し活かしていきたいと思えます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|--------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | : 個々のかかりつけ医への受診同行や往診時の医療情報など必要に応じて適切な医療が受けられるよう支援に努めています。 | 利用者全員が近隣のかかりつけ医で受診している。遠方の家族も事業所を訪れ受診に同行している。内科以外の受診の際も必要に応じて職員が同行したり、往診に来てもらう場合は看護師から利用者の情報がきちんと伝えられるように支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | : 日々、職員、看護職員を含めた申し送りを実施しています。その都度情報の共有を図り利用者の健康管理に努めています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | : 入院後の面会を行い情報収集、提供に努めています。また、退院時カンファレンスでは各職種間との連携を図り家族の相談に応じています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | : 契約説明の時点で終末期の意向調査を行っています。施設での「看取り」の希望があり支援体制づくりに取り組んでいます。 | 利用者には入居の段階で終末期のあり方についてきちんと説明をしており、意向調査確認書ももらっている。管理者は系列の事業所で看取りの経験もしており、職員間でも支援体制を整えている。 | |
| 34 | (12-2) | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | : 職員の救急時や急変時の対応能力は個々に差があります。定期的に救急法や急変時の対応等研修を受講し全員が実践力を身に付ける様実施したいと思います。 | 緊急時の対応能力は職員の経験などによって、多少の差があるが、管理者は医療経験もあり、病院から来た職員等もあり、看護師の的確な指導助言を受けながら、定期的に研修の場を設け全員に実践力がつくように努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | : 災害時に備え年2回職員全員の避難訓練を消防立ち合いの下実施している。夜間を想定した避難訓練も実施しています。 : 地域の消防団員への協力体制も得ています。 | 災害時の対応として職員全員で訓練を実施しておりマニュアルも整備されている。地元の消防団や自治会長の理解協力については口頭で了解が得られているが、なかなか実践に繋がっていない現状がある。備蓄は完備しており業者による在庫管理がきちんとされている。 | 災害時の対応については、より多くの地域住民の協力が必要となるため、民生委員や町内会への協力要請など、具体的な協力を繋がるよう、運営推進会議などの場で具体化されることを期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | : 職員の研修等で人格の尊厳、プライバシーの確保等を重点的に学びの機会を設けているが常に意識して言葉かけが出来るかということと必ずしも実現されていない事もあります。自覚を浸透させ指導していきたい。 | 利用者のプライバシーの確保に関して職員の意識などに多少の温度差があるが、管理者と職員は良好な関係にあり、きちんと指導したり、他の職員同士でもお互いに助言するなど徐々に改善されるよう努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | : 今、どうしたいのか？自己決定の働きかけは個々の能力を考慮し実施していますが時には十分な表出に繋がらない場面が多々あります。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | : 日々のスケジュールは特にないが個々の選択で様々なスタイルで過ごされている。ゲーム、軽作業、散歩や休息、読書、音楽鑑賞やテレビ一日どう過ごされるか本人任せ。職員は寄り添う。そんな日々を実践しています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | : 入浴時の着替えや外出時には一緒に洋服を選んだり起床時の整髪、髭剃り、爪切りなど身だしなみやおしゃれの支援に努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | : 個々の食事の好みや食形態を収集し美味しく食べて頂ける様工夫し提供しています。 : 月1程度誕生会や調理レクを計画し、一緒に果物を切ったりフルーツの盛り付けや準備やできる方には片付けもお手伝い頂いています。 | 地域の人から採りたての野菜の差し入れがあったり、決められたメニューの他に追加されたりして日々の食事が充実している。一人ひとりの好みに応じて嫌いな食材は変更に応じている。キッチン天井が高く窓もあり明るく清潔である。調理台はアイランドキッチンが設えてあり、ゆったりとしたスペースで利用者も一緒に調理できるようになっている。季節ごとやイベントなどでお好み焼きやお汁粉、ホットケーキ作りなども楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | : 一人ひとりの好みや量を把握し水分チェック、栄養バランスなどそれぞれの健康状態を確認し対応しています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | : 毎食後の口腔ケアの支援は日課となっています。自立されている方も声掛け見守りを行い歯磨き後のチェックで口腔内の清潔を保持できるよう支援に努めています。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | : 地域のひとり一人の排泄パターンを把握し夜間おむつ対応の方も日中はリハパン、トイレ誘導を行い自立に向けた取り組みを行っています。習慣を確認する事が困難な場合もあるが十分観察し自立に繋げていきます。 | 利用者全員がほぼ自立であり、トイレも広く車いす対応の方もきちんとプライバシーが守られている。また、排泄チェック表を使用し本人の生活リズムに沿ったパターンでの排泄ができるよう支援に努めている。夜間のオムツ使用の利用者も声掛け誘導をしてトイレでの排泄を支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | : 排便チェックを個々に実施。記録にて必要時排便コントロールを行っています。 : 内服管理、水分摂取、食事量のチェックも参考にそれぞれの状態に合わせて便秘予防に努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | : 入浴日は週3回を目途に曜日は設定していますが、体調や拒否で変更になる事があります。午前、午後の希望はお聞きますが現在は全員午前を希望されています。便失禁時はこの限りではありません。 | 浴室は建物の角に設置されており、窓からは遠くの山々が見ることができる。浴槽も広く開放的な空間で気持ち良く入浴できる環境である。機械浴槽のため入浴剤は使用できないが利用者の好み入浴用品を使用している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | : 入居者それぞれの生活スタイル、パターンに合わせて自由に居室で休息されたりホールでウトウトされたり、安心、安全に過ごして頂ける様見守り、支援に努めています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | : 個人の薬情報を収集し看護師が配薬。服用チェック表で確認を行い内服前ダブルチェックし服薬管理を行っています。 : 毎朝、バイタルチェックを実施。症状の変化の早期発見に繋がっています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | : 趣味や特技などをご本人ご家族から収集し継続して取り組んで頂ける様支援しています。編み物でご自分のひざ掛けを完成され愛用したり季節毎の貼り絵を楽しんで頂いたり個々の興味や出来る事を引き出し日々生活のメリハリを支援。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | <p>：季節ごとの花見ドライブや市外で外食、月岡温泉の足湯につかりまったりの時間を共有。また野外ライブが開催されており皆さんも初体験！</p> <p>：新年は自宅で家族と過ごされたり温泉旅行に出かけられています。</p> <p>：天気の良い日には苑庭の散策やお茶会も実施</p> | <p>事業所の周りは田んぼと県道沿いの商業施設であり、交通量が多く危険が伴うため、散歩が難しい立地条件であるが、集落内の地域の茶の間へ利用者とは出かけて日常の散歩に繋げている。隣接の小規模多機能事業所との駐車場の共有スペースの苑庭を散策したり、テラスでお茶会や外気浴を楽しんだりしている。季節ごとの外出はいろいろ企画されており、利用者の楽しみの支援に努めている。</p> | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | <p>：ご家族よりそれぞれの金額でお小遣いを預かり管理しています。日用品、受診料、散髪など個々の用途でお小遣い長に記帳しご本人ご家族に随時説明しています。希望があれば本人同行での買い物支援も行っています。</p> | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | <p>：携帯電話を所有され自由に家族と連絡をされていらっしゃるかたもおられます。また直接ご家族と相談したいことがあるとき等は電話をつなぎお話できるような環境を整えています(子機にて)</p> | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | <p>：天井が高く窓から入る陽射しが明るく心地良さを演出してくれています。アイランドキッチンを導入し入居者様と調理をしながらコミュニケーションの場としても活用でき職員にも好評です。</p> <p>：「ふれ愛コーナ」はご家族や地域住民、来客との憩いの場として活用しています。</p> | <p>管理者の思いが詰まった建物は木の温もりが感じられ、ゆったりとした造りの中はどの場所も外光が十分に差し込み明るく居心地の良い空間となっている。玄関も常に施錠せず網戸になっており出入りが自由にできるため、地域の方や家族の面会なども気軽にできる状況である。居室やふれあいコーナーなども緑や花が飾られており、利用者も穏やかに過ごすことが出来ている。</p> | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | : 入居者同士で気の合う方同士、各居室でお茶をされたり一緒に過ごされています。 : 共有スペースではゲームやレク内容によってそれぞれの席を自由に移動されています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | : 全室ベットとチェスト、クローゼットには馴染みの家具、調度品などを持ってきて頂ける様設え空気清浄機の設置で環境にも留意しました。 : 居室は広く家族の来苑時ゆったり過ごして頂ける様それぞれ椅子も用意されています。 | 居室内の広さも十分であり、家族が来所して泊まることも可能な広さとなっている。出窓があるためゆったり感が感じられる。入口ドアも広く、チェスト、テーブル、椅子、ゴミ箱なども備え付けられ、職員がきちんと掃除をしており清潔で利用者も満足感を感じている様子が窺える。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | : 完全個室化されていますがキッチンや食堂、共有スペースの配置に工夫し天井から差し込む日差しは暖かくホットする空間になっています。安全、安心を優先し家庭的な環境を設えています。 | | |